

立川市における小児期からの 健康的なライフスタイルの確立 に関する研究経過報告

(分担研究：小児期からの健康増進対策に関する研究)

西田美佐, 古谷みゆき, 衛藤幹子,
木村康一, 武藤孝司, 福渡 靖

要約：「小児期からの成人病予防」に関する研究（平成2～4年）として、平成4年度より初回調査を開始した立川市におけるコーホートを引き続き追跡、介入方法を検討している。今年度は、平成5年度に、住所の確認と家庭における歯科保健行動や意識の実態を知るために実施した歯科保健に関する質問紙調査結果の分析を行い、次年度以降の追跡、介入、連絡調整等の予定を検討した。

見出し語：コーホート調査, 追跡, 介入, 歯科保健調査

はじめに

「小児期からの成人病予防」に関する研究(平成2～4年)として、平成4年度より初回調査を開始した立川市におけるコーホート(平成元年4月2日～平成2年4月1日生まれの児；初回調査時には原則として3才1ヶ月、保健所の3才児健診に来所した1286名のうち、調査票が回収できた1148名から、住所・氏名の記入のない5名を除く1143名)を引き続き追跡し、介入方法を検討している。今年(平成6年)度は、平成5年度に実施した歯科保健に関する調査に返信があった757名(757/1137=66.6%)についての結果を分析し、介入(歯科保健に関する教育)の内容・方法を検討した。

I. 歯科保健に関する調査の実施方法及び分析対象者

1) 歯科保健に関する調査の実施

平成5年度に、初回調査の主な結果を“立川市の3才児を対象とした「生活習慣に関するアンケ

ート」集計結果”(以下“アンケート集計結果”) (資料1)として冊子にまとめ、パンフレット(大国真彦著：子どもの成人病予防ガイド, 東京法規出版)とともに、対象者全員に郵送した。

その際同時に、住所の確認と家庭における歯科保健行動や意識の実態を把握するための質問紙を返信用封筒とともに同封した。返信があった757名(回収率:757/1137=66.6%)についての結果を分析した。

II. 歯科保健に関する調査結果

返信があった757名のうち、調査票の記入者の722名(95.4%)が母親、28名(3.7%)が父親であった。

また、保育園に通っている者は252名(33.3%)、幼稚園に通っている者は431名(56.9%)、どちらにも通っていない者は74名(9.8%)であった。

以下、歯科保健に関連した行動や意識の実態を中心とした調査結果の概要を、保育園に通ってい

順天堂大学医学部公衆衛生学教室

(Department of Public Health, Juntendo University School of Medicine)

る者、幼稚園に通っている者、通っていない者に分けて示す。

1) 食事時間(表1)

「食事の時間は決まっていますか」との問いに対し、“決まっている”と回答した者は、全体の97.0%で、“決まっていない”と回答した者は、わずか3.0%であった(p<.001)。

食事時間が“決まっていない”者は、保育園・幼稚園に通っている者(2.4%, 2.1%)に対し、通っていない者(10.8%)に多かった。

2) 朝食の摂食頻度(表2)

全体の95.1%の者が、朝食を“ほぼ毎日食べる”と回答しており、“週4~5日”“週2~3日”“ほとんど食べない”と回答した者すなわち朝食を毎日食べていない者は4.9%であった。

朝食を毎日食べていない者は、保育園に通っている者では6.0%、幼稚園に通っている者では3.7%、通っていない者では8.1%であった。

3) 朝食で野菜料理を食べているか(表3)

「平日の朝食の内容は」との問いに、ごはん、パン、みそ汁、牛乳、魚・卵・肉・大豆料理、野菜料理など10の選択肢を挙げ、食べているもの(複数可)に○をつけたてもらったところ、“野菜料理”に○をつけた者の割合は、全体の30.4%であった。従って平日の朝食で野菜料理を食べていない者は69.6%であった。

平日の朝食で“野菜料理”を食べていない者は、保育園に通っている者のうち67.5%、幼稚園に通っている者のうち69.6%、通っていない者のうち77.7%であった。

4) 水・茶以外の飲み物の飲ませ方(表4)

水・茶以外の飲み物の飲ませ方についてたずねたところ、“時間を決めている”と回答した者は全体の35.2%であったのに対し、“時間を決めずに欲しがる時飲ませる”と回答した者は64.8%であった。

表1 食事の時間

	保育園 n=252	幼稚園 n=431	通っていない n= 74	合計 n=757
決まっている	246(97.6)	422(97.9)	66(89.2)	734(97.0)
決まっていない	6(2.4)	9(2.1)	8(10.8)	23(3.0)

P=.0002 **

表2 朝食の摂食頻度

	保育園 n=252	幼稚園 n=430	通っていない n= 74	合計 n=756
ほぼ毎日	237(94.0)	414(96.3)	68(91.9)	719(95.1)
週4~5日	8(3.2)	9(2.1)	4(5.4)	21(2.8)
週2~3日	4(1.6)	6(1.4)	2(2.7)	12(1.6)
ほとんど食べない	3(1.2)	1(0.2)	-(-)	4(0.5)

表3 朝食で野菜料理を食べる

	保育園 n=252	幼稚園 n=431	通っていない n= 74	合計 n=757
食べる	82(32.5)	131(30.4)	17(23.0)	230(30.4)
食べない	170(67.5)	300(69.6)	57(77.0)	527(69.6)

表4 水・茶以外の飲み物の飲ませ方

	保育園 n=239	幼稚園 n=413	通っていない n= 70	合計 n=722
決めている	85(35.6)	141(34.1)	28(40.0)	254(35.2)
欲しがる時	154(64.4)	272(65.9)	42(60.0)	468(64.8)

表5 歯みがきをする頻度

	保育園 n=252	幼稚園 n=431	通っていない n= 74	合計 n=757
ほぼ毎日	227(90.0)	392(90.9)	66(89.1)	685(90.5)
週4~5日	11(4.4)	25(5.8)	5(6.8)	41(5.4)
週2~3日	9(3.6)	12(2.8)	3(4.1)	24(3.2)
ほとんどかかない	5(2.0)	2(0.5)	-(-)	7(0.9)

表6 子どもがみがき、大人が仕上げみがきをする

	保育園 n=247	幼稚園 n=426	通っていない n= 74	合計 n=747
起床後	3(1.2)	7(1.6)	1(1.4)	11(1.5)
朝食後	42(17.0)	73(17.1)	8(10.8)	123(16.5)
昼食後	12(4.9)	6(1.4)	3(4.1)	21(2.8)
夕食後	27(10.9)	52(12.2)	10(13.5)	89(11.9)
就寝前	179(72.5)	289(67.8)	57(77.0)	525(70.3)
間食後	3(1.2)	6(1.4)	3(4.1)	12(1.6)
その他	7(2.8)	15(3.5)	-(-)	22(2.9)
していない	28(11.3)	60(14.1)	6(8.1)	94(12.6)

“時間を決めずに欲しがる時飲ませる”と回答した者は、保育園に通っている者では64.4%、幼稚園に通っている者では65.9%、通っていない者では60.0%であった。

5) 歯みがきをする頻度(表5)

「歯みがきをしていますか」の問いに対し、“ほぼ毎日みがく”と回答した者は全体の90.5%であった。“週4~5日みがく”“週2~3日みがく”“ほとんどみがかない”を合わせた9.5%の者は、歯を毎日みがいていないと回答していた。

歯を毎日みがいていない者は、保育園に通っている者のうち10.0%、幼稚園に通っている者のうち9.1%、通っていない者のうち10.9%であった。

6) 子どもがみがき、大人が仕上げみがきをする(表6)

就寝前に歯をみがくとき、“子どもがみがき、大人が仕上げみがきをする”と回答した者は、全体の70.3%、従って就寝前にそうしていない者の割合は29.7%であった。

就寝前に歯をみがくとき、子どもがみがき、大人が仕上げみがきをしていない者の割合は、保育園に通っている者では27.5%、幼稚園に通っている者では32.2%、通っていない者では23.0%であった。

7) デンタルフロスの使用(表7)

「歯ブラシ以外にデンタルフロス(歯と歯の間の汚れを落とす糸)も使っていますか」との問いに“ほぼ毎日使っている”と回答した者は、わずか4.6%、“週4~5日”(1.1%)と“週2~3日”(10.4%)を合わせても使っている人は全体の16.1%であったのに対し、“殆ど使わない”と回答した者が83.8%を占めていた。

デンタルフロスを“殆ど使わない”と回答した者は、保育園に通っている者のうち84.5%、幼稚園に通っている者のうち84.9%、通っていない者のうち75.7%であった。

8) フッ素を塗った回数(表8)

表7 デンタルフロスの使用

	保育園 n=251	幼稚園 n=431	通っていない n= 74	合計 n=756
ほぼ毎日	7(2.8)	21(4.9)	7(9.5)	35(4.6)
週4~5日	2(0.8)	5(1.2)	1(1.4)	8(1.1)
週2~3日	30(12.0)	39(9.0)	10(13.5)	79(10.4)
殆ど使わない	212(84.4)	366(84.9)	56(75.7)	634(83.8)

表8 フッ素を塗った回数

	保育園 n=252	幼稚園 n=427	通っていない n= 73	合計 n=752
4回以上	14(5.6)	20(4.7)	3(4.1)	37(4.9)
3回	8(3.2)	21(4.9)	7(9.6)	36(4.8)
2回	28(11.1)	52(12.2)	12(16.4)	92(12.2)
1回	50(19.8)	72(16.9)	16(21.9)	138(18.4)
ない	152(60.3)	262(61.4)	35(47.9)	449(59.7)

表9 テレビの視聴時間(一日平均)

	保育園 n=252	幼稚園 n=431	通っていない n= 74	合計 n=757
1h未満	8(3.2)	16(3.7)	6(8.1)	30(4.0)
1h~	51(20.2)	74(17.2)	5(6.8)	130(17.2)
2h~	94(37.3)	167(38.8)	25(33.7)	286(37.7)
3h~	62(24.6)	117(27.1)	19(25.7)	198(26.2)
4h~	37(14.7)	57(13.2)	19(25.7)	113(14.9)

P=.0210 *

表10 テレビゲームのプレー時間(一日平均)

	保育園 n=231	幼稚園 n=398	通っていない n= 69	合計 n=698
しない	189(81.9)	337(84.7)	55(79.8)	581(83.2)
1h未満	28(12.1)	36(9.0)	7(10.1)	71(10.2)
1~2h	11(4.8)	19(4.8)	5(7.2)	35(5.0)
2h以上	3(1.3)	6(1.5)	2(2.9)	11(1.6)

フッ素を塗ったことが“4回以上ある”と回答した者は4.9%“3回ある”は4.8%“2回ある”は12.2%、“1回ある”は18.4%と、これまでにフッ素を塗ったことがある人は全体の40.3%、フッ素を塗ったことが“ない”と回答した者は59.7%であった。

フッ素を塗ったことが“ない”と回答した者の割合は、保育園に通っている者では60.3%、幼稚園に通っている者では61.4%、通っていない者では47.9%であった。

9) テレビの視聴時間(一日平均)(表9)

「1日平均何時間テレビをみますか」との質問に対し、時間数を書き込んでもらい、5つのカテゴリーに分けたところ、“1時間未満”の者はわずか4.0%であった。“1時間以上2時間未満”の者が17.2%、“2時間以上3時間未満”の者が37.7%、“3時間以上4時間未満”の者が26.2%、“4時間以上”の者が14.9%であった。

1日平均“4時間以上”と記入した者は、保育園に通っている者のうち14.7%、幼稚園に通っている者のうち13.2%、通っていない者のうち25.7%であった。

尚、テレビの視聴時間(一日平均)を“4時間以上”の者とそれ以外(4時間未満)の者との2群に分けて、保育園に通っている者、幼稚園に通っている者、通っていない者のうちの割合を比較すると、“4時間以上”の者の割合は保育園・幼稚園に通っていない者に多かった($P < .05$)。

10) テレビゲームのプレー時間(一日平均)(表10)

「1日平均何時間テレビゲームをしますか」との質問に対し、時間数を書き込んでもらい、3つのカテゴリーに分けたところ、“しない”者が全体の83.2%であった。“1時間未満”の者は10.2%、“1時間以上2時間未満”の者が5.0%、“2時間以上”の者が1.6%であった。

テレビゲームを1時間未満であってもしている者の割合は、保育園に通っている者では18.2%、幼稚園に通っている者では15.3%、通っていない者では20.2%であった。

Ⅲ. 介入について

1) 歯科保健(虫歯予防)プログラムについて

幼児やその保護者(主として母親)を対象とした、成人病のリスクファクターに関連した食生活・運動・休養などの望ましい生活習慣形成のためのプログラムを作成するにあたり、我々は、幼児期に罹患率が高く、対象者にとっても身近で関心が持てる問題であろう等の理由から虫歯に注目し、歯科保健(虫歯予防)に関する教育プログラムを実

施したいと考えた。

2) 介入方法の検討

市の福祉部や保育園と協議を重ね、介入研究についての理解・実施への合意を得、案1.とその試行(平成4年度)及びその修正案2.を作成するなどして介入方法を検討してきた(詳細は平成5年度報告書参照)。しかしその協議の際に、立川市の保育園における歯科保健指導は充実しており、すでに虫歯が減少傾向にあることなどの情報を得たため、具体的な内容については、再度検討する必要があると考えた。現在保育園で実施している歯科保健対策にプラスαの内容である事、あるいは現在行われている歯科検診や保健指導の内容の違いにより園児の歯科疾患の状況を比較すること等も考えたが、平成7年度には介入の内容や方法を具体化するため、立川市福祉部や保育園から得た情報や資料を分析すると共に、平成5年度に実施した、家庭における歯科保健行動や意識に関する質問紙調査の結果を検討し、再度修正案を作成した上で、関係機関との調整をはかることとした。

Ⅳ. 今後の計画

1) コーホートの追跡

平成5年度に実施した、家庭における歯科保健行動や意識に関する質問紙調査の結果(本報告)を返却することで、住所の確認を兼ねる。

今後も、できるだけ脱落者を少なくするための方策として、調査結果の返却の仕方、調査継続のための依頼文の内容等を検討する。

2) 介入について

(1) 平成7年度

平成7年度には、①介入の実施、及び②2次調査の実施のための調査内容の検討、関係諸機関との連絡調整を行う。

①介入の実施

平成5年度に実施した、歯科保健行動の実態調査結果の集計し、対象者全員に集計結果(家庭における歯科保健行動の実態に関する調査報告)及

び虫歯予防に関するパンフレットを送付。同時に住所の確認。現在報告書・パンフレット作成中。

②2次調査の内容検討・関係諸機関との連絡調整

平成8年度(小学校入学時)以降の調査の継続について、市教育委員会等と打ち合わせをする。

(2)平成8年度以降

実際の介入は平成7年度、評価は対象児が小学校に入学する平成8年度に実施する。



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



要約:「小児期からの成人病予防」に関する研究(平成2~4年)として、平成4年度より初回調査を開始した立川市におけるコーホートを引き続き追跡、介入方法を検討している。今年度は、平成5年度に、住所の確認と家庭における歯科保健行動や意識の実態を知るために実施した歯科保健に関する質問紙調査結果の分析を行い、次年度以降の追跡、介入、連絡調整等の予定を検討した。